



# 国際理解講演会開催



6月18日(金)の6校時目に全校生を対象に国際理解講演会を開催しました。  
 今回は、早稲田大学GSセンターの渡邊歩氏を講師に迎え、「多様な性から考える過ごしやすい学校・社会」をテーマに講演していただきました。  
 90分の講演会のあと、希望する約20名の生徒が渡邊さんとの座談会に参加し更に理解を深めました。



## 早稲田大学GSセンターとは

GSはG(Gender)S(Sexuality)の略。早稲田大学では学内各箇所やLGBTサークル等が連携し、シンポジウムや講演会などを実施しています。学生部のスチューデントダイバーシティセンター内に、「異文化交流センター」、「障がい学生支援」に加え、ジェンダー・セクシュアリティに関するリソースセンターとして2017年に「GSセンター」を開設しました。

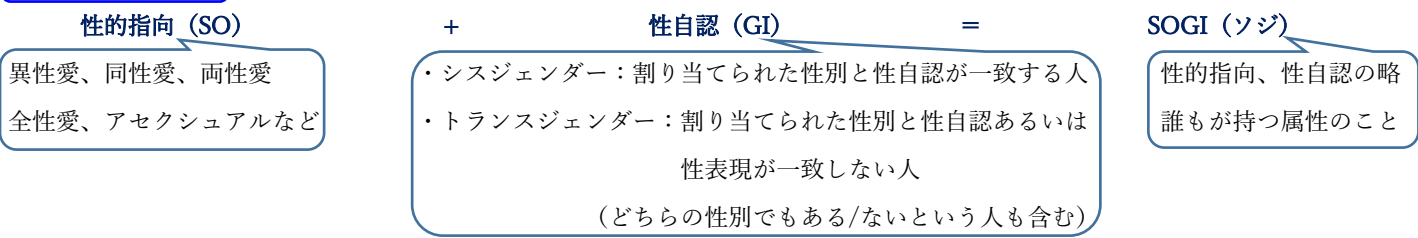
## LGBTとは

L=レズビアン G=ゲイ B=バイセクシュアル T=トランスジェンダー の頭文字を併せた言葉で、性的マイノリティ(性的少数者)を包括して表す言葉。日本の統計では人口の3.3%~10%がLGBTと言われている。

## 性について

- ★性自認…自分自身の性別に関する一定の連続性・一貫性・持続性を伴った自己認識。基本的に「アイデンティティ」なので気づいていくもの。自分をどれくらい「男/女である」「どちらでもある/どちらでもない」と思っているかの度合いは個人によって異なる。自分の性別をいつ、どんな時に、どれくらいの強さで認識するかは人それぞれ。「自分の性別を何だと認識しているか」と、「どの性別を好きになるか」は別の問題である。
- ★性別学的性…生理・解剖学的な性別とされている。まれに非定型発達の人もある。胎児期に分化するが、身体はグラデーション。身体的特徴は人それぞれ。同じ女性/男性の体でも、特徴は様々(骨格、丸み、筋肉量、声の高さなど)。生物学的性がどうであるかと、そのジェンダー(性自認や社会的性)は別の話である。
- ★性別役割…その性別に期待される行動、振る舞い、服装、在り方など(そうあるべき、に近い)  
 ↳ 「男のくせに/女のくせに」は性差別にあたる  
 性差(統計データ)や周囲の環境を密接に絡み合った考え。個人によって若干異なる。

## SOGI (ソジ) とは



## 日本の状況

- ・G7の中で同性愛についてルールがないのは日本だけで日本に法的保障はない
- ・同性パートナーシップ制度があるのは103自治体で、1741組が利用している
- ・ジェンダーギャップ指数 120位/156ヶ国
- 同性同士での結婚を認めているのは29ヶ国  
台湾はアジア初の同性同士の結婚を認めた国

## LGBTの方が困っていること

- ・否定的な発言や冗談、からかいがあること
- ・自己肯定感が低くなる・カミングアウトができない
- ・制度や日常会話でいえないことにされていること
- ・男女別のトイレや更衣室 など

## 私たちにできること

一番大切なことは周りにLGBTの方がいるかもしれないということ意識し、自分の振る舞いや言動を変える。  
 周りの人にLGBTについて話したり肯定的な発言をしたりする。